ISSN 2186－747X

さいたま市文化財時報

榧（かや）りぽーと

第84号

令和３年度　埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、地中に「埋蔵」された「文化財」のことで、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料です。さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、「埋蔵文化財包蔵地」（埋蔵文化財の存在が知られている土地）が1,100か所以上確認されています。

埋蔵文化財は、地中から掘り出してしまうと、元に戻すことができないため、埋もれたままの状態で保存することが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまう場合には、記録として保存するための「発掘調査」を実施します。今年度２月末までに市内で実施された発掘調査は、25件ありました。

また、さいたま市では、平成28年の10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備に向けて、史跡内の内容を確認することを目的とした学術的な発掘調査を行っています。

今回は、これらの発掘調査のうち、令和３年度に実施された主な調査成果をご紹介します。

谷の中から色鮮やかな籃胎漆器（らんたいしっき）が出土
～国史跡　真福寺（しんぷくじ）貝塚の調査～〈岩槻区〉

東武アーバンパークライン岩槻駅の南東約1.6㎞、岩槻区城南３丁目に所在する遺跡です。昭和50年に国の史跡に指定されており、史跡整備に向けて内容確認調査を平成28年度から継続して行っています。

今年度は、真福寺貝塚の水辺の活動域に近接する台地縁辺部から谷部周辺の調査を２ヵ所で実施しました。調査の結果、北側の谷部では、縄文晩期前葉の遺物を多量に含む斜面堆積層が２ｍ以上にわたり厚く堆積し、谷を埋め立てている様相を確認しました。谷の中からは、通常の台地上では腐食してしまう、色鮮やかな籃胎漆器（竹ひごで編んだかご類に漆が塗られたもの）の破片が出土しました。

そして南側の谷部でも約２ｍにわたり縄文後期前葉から末葉の遺物を伴う斜面堆積層や貝層によって、谷が埋め立てられている様相を確認しました。

今回の調査により、史跡西側の遺跡形成以前の詳細な微地形や、土地利用状況などが明らかになりました。来年度も引き続き谷部周辺を調査するとともに、新たに泥炭層地点の調査を実施する予定です。

▲谷部を埋める斜面堆積層

▲谷部から出土した籃胎漆器の破片

縄文時代中期の大集落 ～上木崎足立遺跡の調査～ 〈浦和区〉

JR与野駅の東約1.2km、浦和区上木崎７丁目に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で３回目になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和３年２月から８月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡69軒、平安時代の住居跡２軒、そして縄文時代の土器、石器、平安時代の土師器、石製品、鉄製品等の遺構・遺物を検出しました。

検出された縄文時代中期の住居跡の中には、市内では珍しい、土器片で炉を囲う、土器片囲炉を伴う住居跡が発見されました。今回の調査で本遺跡は、縄文時代中期の大規模な集落遺跡であること、平安時代にも居住していたことなどが新たにわかりました。

▲土器片囲炉を伴う縄文時代中期の住居跡

深さ２ｍを超える縄文時代の大土坑 ～南方遺跡の調査～ 〈緑区〉

JR東川口駅の北東約0.6km、緑区大字大門に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で12回目になります。宅地造成工事に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和４年１月から２月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代後期から晩期にかけての複数の土坑と、縄文土器や石器などの遺構・遺物を検出しました。

検出された土坑のうちの一つは、直径２ｍ、深さも２ｍを超えるとても大きな土坑で、土坑内からはシカやイノシシの生骨や縄文時代後期末葉から晩期初頭を中心とする土器が多量に出土しました。

そして、土坑の最下面からは、複数の縄文土器が、潰れた状態で見つかるなど、貴重な出土状態で発見されました。

▲土坑の最下面から出土した縄文土器

弥生時代後期の集落跡 ～西堀上ノ宮遺跡の調査～ 〈桜区〉

JR中浦和駅の北西約170m、桜区西堀二丁目に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で４回目になります。集合住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和３年11月から12月にかけて実施しました。

調査の結果、弥生時代後期の住居跡６軒、谷状遺構１基、弥生時代～古墳時代の溝１条、旧石器時代の石器、縄文時代の土器、弥生時代の土器（久ヶ原式）・石器・鉄器などの遺構・遺物を検出しました。

本遺跡は大宮台地の与野支台南端に位置していますが、今回の調査により台地最南端にまで弥生時代の集落が展開していることが明らかになりました。

▲弥生時代後期の住居跡

火災にあった住居跡の調査 ～芝原（しばはら）遺跡の調査～ 〈緑区〉

▲炭化材を伴う弥生時代後期の焼失住居跡

JR 東浦和駅から北に約2.1km、緑区芝原に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で６回目になります。店舗の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和３年９月から10月にかけて実施しました。

調査の結果、弥生時代後期の住居跡５軒と弥生土器、鉄器などの遺構・遺物を検出しました。発見された住居跡の中の１軒からは、多量の焼土・炭化材が出土したことから、火災により焼失した住居であることが明らかとなりました。

今回の調査により、弥生時代後期を中心とする居住活動が、本地点を含めた周辺で行われていたことが明らかとなりました。

住居跡から大量の土器が出土 ～白鍬宮腰（しらくわみやこし）遺跡の調査～ 〈桜区〉

▲多量の遺物が出土した古墳･奈良時代の住居跡

JR 与野本町駅から北西に約２km、桜区大字白鍬に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で19回目になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和３年９月から令和３年12月にかけて実施しました。

調査の結果、古墳時代中期の住居跡３軒、奈良時代の住居跡２軒およびそれに伴う土器や鉄器などの遺構・遺物を検出しました。中でも古墳時代中期と奈良時代の住居が重なる１軒からは、多量の遺物が出土しました。そして奈良時代の住居跡から出土した多量の遺物は、住居が焼失した後に廃棄されたものであることが堆積状況により明らかとなりました。

古代の溝 ～上大久保新田（かみおおくぼしんでん）遺跡の調査～ 〈桜区〉

▲古墳時代から平安時代の溝跡

JR 南与野駅の北西約1.7km、桜区大字上大久保に所在する遺跡です。この遺跡での発掘調査は今回で８回目になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が令和３年12月から令和４年２月にかけて実施しました。調査の結果、古代の溝１条、ピット37基、土坑６基、井戸跡１基、近世の溝１条、そして古墳時代から平安時代の土師器、須恵器、近世の陶磁器などの遺構・遺物を検出しました。古代の溝はＶ字状の形状を呈しており、幅1.7m、深さ1.3m を測ります。

旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉・室町・戦国	江戸	近現代

10000　200　BC 0 AD　200　400　600　800　1000　1200　1400　1600　1800　2000

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様に埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

令和３年９月から令和３年11月まで、市内の発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館（大宮区）、東浦和図書館（緑区）、コクーンシティ２（大宮区）の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設で開催したことで、多くの方にご来訪いただきました。

▲最新出土品展（コクーンシティ２）

最新出土品展開催中の９月11日には「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」を青少年宇宙科学館（浦和区）で開催し、市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表しました。参加された方には、令和２年度に実施された発掘調査や、国指定史跡・真福寺貝塚に関する説明などを熱心にお聞きいただきました。

TOPICS

●「田島ケ原サクラソウ自生地」特別天然記念物指定70年記念パネル展を実施しました

令和４年（2022）は田島ケ原サクラソウ自生地が国の特別天然記念物に指定されてから70年となります。令和２年（2020）の国の天然記念物指定100年に続き、節目の年を迎えました。これを記念して、桜図書館と中央図書館でパネル展を実施しました。令和２年に実施した国指定100年のパネル展の内容に、特別天然記念物指定に着目したパネルを追加するかたちで自生地を紹介しました。

▲桜図書館での展示の様子

▲中央図書館での展示の様子

田島ケ原サクラソウ自生地（桜区田島）は、例年３月下旬から４月上旬にかけてサクラソウの見頃を迎えます。100年以上の月日にわたって守られてきた風景をお楽しみください。

４月17日㈰までの間、自生地ではボランティアによるガイドを毎日実施しています。

（10時から15時まで。雨天、強風時は中止）

さいたま市文化財時報
埋りぼーと　第84号
令和４年３月28日

《編集・発行》
さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
〒330-9588　さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723　FAX048-829-1989
https : //www.city.saitama.jp/

この刊行物は1,200部作成し、１部あたりの印刷経費は48円です。